

感動の場

『農民達』

1942年 小川原 脩 画



この春、東京・板橋区立美術館で「さまよえる絵筆―東京・京都 戦時下の前衛画家たち」(3/27～5/23)が開催され、小川原脩作品が展示されています。

日本の前衛画壇が最盛期を迎えていた1930年代後半、日独伊防共協定の締結、太平洋戦争開戦などをきっかけにイタリアのルネサンス絵画や日本の仏像、庭園などが多く紹介され、シュルレアリスム(超現実主義)やアブストラクト(抽象芸術)といった前衛絵画とは対照的な古典の影響を受けた作品が盛んに発表されます。そのために戦時下の日本の前衛絵画は弾圧されたと見なされていますが、一方で西洋や東洋・日本の伝統的な技法や題材に立ち戻ることによって新たな表現を模索していたことが分かり、この展覧会ではその時代を生きた画家たちに焦点を当てています。

この当館所蔵の本作は出品されていませんが、展覧会図録に参考図版として掲載されました。小川原もまた、イタリアルネサンスの画家・ピサネロを思わせる馬を中心に据えながらも、故郷の農民達を群像として描き、時代の空気感を反映していたのです。

文：沼田 絵美(小川原脩記念美術館 学芸員)

―山麓から生まれた偉大な作曲家・八洲秀章―

やし ま ひ で あ き

456回

ふるさと探訪

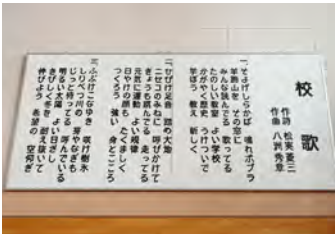
「く～まざさの～ さ～わぐ げ～ん～や～に～♪」

こんな歌い出しの「俱知安町民の歌」をご存じでしょうか。昭和49年に町の歌に制定された楽曲で、先人の苦勞の末に切り開かれた俱知安が、自然と水、文化の色豊かな町であることを感じさせます。

この曲を作った八洲秀章(本名：鈴木義光)は真狩村の出身で、昭和初期から戦後にかけて活躍し、多数の楽曲を残しました。彼は四国から来道して農家を営む両親と兄1人、姉3人のもと、末っ子として大正4年(1915年)に誕生。その頃の真狩村は、いたるところにハルニレやシナノキの大木の切り株が見られ、まだ開拓の名残を色濃く残していたそうです。義光は小学校の頃からオルガン演奏や独唱などで才覚を現していましたが、将来は実家の農家を継ごうと考えていました。しかし17歳の時、不慮の事故で大けがを負ってしまいます。苦悩の闘病生活の中で読んだ音楽に関する本や、当時師事していた俱知安の音楽教師の影響を受け、結果的に作曲家を目指して上京。昭和15年(1940年)に「高原の旅愁」でデビューを果たし、その後も「あざみの歌」、「さくら貝の歌」、「毬藻の歌」、「山のけむり」といったヒット曲を生み出しました。

山麓地域では出身の真狩村歌や校歌をはじめ、俱知安小学校や二セコ小学校の校歌などの作曲も手掛け、多大な貢献をしました。彼の精神は今も、山麓地域に息づいています。

文：小田桐 亮(俱知安風土館 学芸員)



俱知安小学校校歌(作曲：八洲秀章)

展覧会のお知らせ

■第1展示室

本庄隆志展「イメージのコラージュ」

会 期：開催中～4月18日(日)

小川原脩展 生誕110年記念「小川原脩 1911-2002」

小川原脩は明治から大正に変わる頃の俱知安に生まれ、青春時代を昭和初期の東京で過ごしました。戦後には日本と世界を故郷の地から見つめ続け、そして平成へと激動の時代を生きた画家です。70年に及ぶ画業をそれぞれの時代を映す代表作とともに振り返ります。また本展では令和2年度に修復した「唄う男」(1933年)、「高山生物誌」(1938年頃)、「酸化」(1960年)の3点を修復後初公開します。

会 期：4月25日(日)～7月11日(日)

■第2展示室

小川原脩展「《森の入口の白い樹》と北の動物たち」

会 期：開催中～4月18日(日)

小川原脩挿絵展「蝦夷残侠伝」

1974～75年かけ雑誌「月刊ダン」に連載された倉島斎の時代小説「蝦夷残侠伝」。小川原脩はこの連載小説の挿絵を担当しました。その数36点。47年ぶりの展示です。小川原には珍しい水墨画風で、人物描写も多いこの挿絵は、新たな小川原脩の魅力を伝えてくれるでしょう。

会 期：4月25日(日)～7月11日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

世界のグレートアーティスト(10)「ピカソ～その偉大なる足跡」

日 時：4月3日(土)14時～15時 会 場：映像ルーム(無料)

お話し：柴 勤(館長)

絵画で楽しむパリの情景(1)「パリの裏通り ユトリロ」

新年度から始まる新シリーズ。パリの情景を描き出したさまざまな画家、作品を紹介します。

日 時：4月10日(土)14時～15時 会 場：映像ルーム(無料)

お話し：柴 勤(館長)

おとなの手しごと～模写 ※定員10名(要予約)、高校生以上対象

新年度から始まる新シリーズ。初回は展示室での自由な「模写～お絵描き」です。

日 時：4月17日(土)14時～16時 会 場：展示室(無料) お相手：沼田絵美(学芸員)

■ギャラリートーク「小川原脩の挿絵～蝦夷残侠伝」

日 時：4月25日(日)14時～14時30分 会 場：第2展示室(無料) お話し：沼田絵美(学芸員)

■金曜ナイトサロン「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち」 ※定員5名程度(要予約)

新年度から始まる新シリーズ。美術の世界にはフランス語が満ち溢れています。作家名や作品タイトルなど読み方を知るだけでも楽しみは一気に広がります。どなたでも大歓迎。ゼロから始めます。

日 時：①4月16日(金)②4月30日(金)各18時～19時 会 場：映像ルーム(無料) お話し：柴 勤(館長)

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)
高校生 300円(200円)
小中学生 100円(50円)

俱知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※()内は10名以上の団体料金

4月の休館日 毎週火曜日

美術館のみ19日～24日

(展示替えのため)

気分を変えて！

あれから1年が過ぎました。コロナ禍のため3月に休館。最終的に再開したのは展覧会が5月の末。イベントに至っては7月からです。それ以来、土曜サロンなど規模を縮小しながら、ほそぼそと続けてきました。そして、つくづくと感じています。継続してきて良かったな、と。

どんな時であれ、音楽や文学と同様、美術が必要な人はいます。あるいは必要としたい時があります。その他にも美術館には見どころがいろいろ。山崎ハコの歌ではありませんが、「気分を変えて」どこかへ行きたくなったら、どうぞ美術館を思い出してください。

館長 柴 勤